

# 令和5年度 第4回伊勢崎市多文化共生キーパーソン会議

## 会議録

開催日時 令和5年12月19日(火) 午後6時30分～午後8時5分

開催場所 伊勢崎市役所東館5階第2会議室

参加者

- ・キーパーソン 【3名】：相沢 正雄さん(ペルー)、本堂 晴生さん(日本)  
若林ヤスイスエリさん(ブラジル)
- ・事務局(国際課)【4名】：国際課長、国際課長補佐、事務局職員2名

---

### 1 開会・あいさつ

### 2 意見交換

#### (1)「多文化共生フェスタいせさき2023の振り返り」

<事務局>

・資料「多文化共生フェスタいせさき2023 実施報告」と資料「多文化共生フェスタいせさき2023 振り返りシート」を見ていただきたい。振り返りシートについて、まず、①Keep(うまくいったこと、このまま継続すること)について、事務局として「SNS等でのイベント情報の拡散」に成功したと考える。次に、②Problem(課題、問題点等)について、事務局として「公共交通機関の案内」、「ボランティアの手配」だと考える。最後に、③Try(新たに実践すること、問題や課題の解決策)について、事務局として「チラシに、公共交通機関の案内を記載する」、「はやい段階でイベントの開催を決定し、時間の余裕をもってボランティア募集をする」だと考える。皆さんの意見を聞きたい。

<キーパーソン>

・子どもが可愛かった。しかし、世界の料理・屋台村に、子どもが食べられるものが少なかった。  
・ファッションショーについて、衣装の説明をしている団体もあり、その国への理解が深まった。

<キーパーソン>

・子どもにとって、よい経験となった。他のイベントにも積極的に参加してもらいたい。  
・司会や出演者等外国人が主となったイベントとなり、外国人がこれだけ出来るとアピールになった。

・外国人コミュニティは多くあるが、国籍が異なるとコミュニティ同士の交流がない傾向にある。色々な国の人々が集まった今回のイベントは継続していきたい。

・ボランティア募集について、ボランティアを募集してから役割を決めるのではなく、役割ごとにボランティア募集をかければ、より人が集まるのでは。また、イベントの最初から最後まで運営の役割をあてるのではなく、ステージ等を楽しめる時間を設けた方がいい。

<キーパーソン>

- ・イベントの運営者が日本人ばかりで、日本人が外国人のためにやっている感じがした。
- ・周囲からは素晴らしいイベントだったと、お褒めの言葉を貰うことが多かった。

<キーパーソン>

- ・次回以降は、各国の民芸品の販売をしたい。

<キーパーソン>

- ・市民プラザは部屋が多いので、民芸品のワークショップや、調理室で各国のお菓子を一緒に作ることもよい。
- ・イベントのタイムテーブルについて、ちょうど良い時間配分であった。
- ・トラブルはあったか。

<事務局>

- ・トラブルは特にない。世界の料理・屋台村で用意した弁当が売り切れてしまい、店舗に取りに帰ることがあった。初めてのイベントということもあり、来客見込みが読めなかったことが原因であると考える。

<キーパーソン>

- ・子ども向けに遊べるスペースを用意したい。

<キーパーソン>

- ・輪投げやおもちゃのプレゼント、フェイスペイントは評判がいい。
- ・他市から来場した人もいた。伊勢崎はすごいと言っていた。他市にこんなイベントはないと言っていた。

<キーパーソン>

- ・単独のイベントもいいが、他の大きなイベントに参加する形式でもいいのではないか。

<キーパーソン>

- ・大学生のボランティアサークルにイベントの手伝いをして欲しい。若者にとって良い経験

となる。

<キーパーソン>

- ・次のイベントは何曜日か。祝日でない方がいい。外国人は祝日に仕事があることが多い。

<事務局>

- ・日曜日を予定している。
- ・意見を参考に、来年以降もより良いイベントを企画したい。

## (2)「多文化共生キーパーソンの今後のあり方について」

<事務局>

- ・多文化共生キーパーソンの皆様には、令和3年2月から、新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意喚起やワクチン接種の情報を、緊急的に外国籍住民の方々に情報伝達・拡散するため、ご協力いただいた。
- ・令和4年度には、各国の生活習慣の違いをまとめた多文化共生リーフレットの作成・普及、今年度は多文化共生フェスタの開催と、皆様の協力に感謝している。
- ・現在、コロナも収束してきたところで、常に現状の課題に沿った意見聴取ができるよう、認定期間を2年以内に改定し、新たに令和6年度から第2期多文化共生キーパーソンを認定する形を考えている。
- ・当初は、認定期間は特に定めておらず、皆様には3年間、お忙しい中、会議等への出席もお願いしてきた。コロナ禍における「注意喚起等の情報伝達」が目標であったキーパーソンの役割を果たすことが出来たということで、任期は令和6年の3月31日までとし、ひとまず一区切りにしたいと考えている。
- ・現在の多文化共生キーパーソンの皆様は、第1期伊勢崎市多文化共生キーパーソンとし、情報発信については、引き続きご協力をいただきたいと考えている。
- ・第2期伊勢崎市多文化共生キーパーソンについては、現状の課題に沿った「生活者としての外国籍住民に、生活に密着した意見を伺いたい」ことから、率直な意見を伺える職業の方を考えている。また、第2期以降のキーパーソンについては、再任を妨げないほしいと考えていることから、皆様の中から再度お願いする方もいるかもしれない。
- ・多国籍となるように1国1人を選定していきたいと考えている。

その他にアイデアがあれば伺いたい。

<キーパーソン>

- ・現在の7人より数を増やした、10人程度にしてはどうか。

<キーパーソン>

・生活に密着したということであれば、かなり細かい意見を吸い上げていかなければならない。言いつばなし、聞きつばなしとしないようにしていかなければならない。市で抱えきれないことは、ボランティアや民間の力を借りることも考える必要がある。

<事務局>

・意見を参考に、検討をしていく。

3. 事務連絡

4. 閉 会